

山下洵子先生を偲んで

岡 田 浩 佑



本年4月1日の午後11時半に、東京の山下洵子先生の娘（奈野）様からメールが送られてきていたのを4月2日早朝に読み、山下洵子先生が3月28日の夜に永眠されたことを知りました。

山下先生は瀬野農園のある遠いところから、広島市己斐のノートルダム清心女子高等学校に通学して、卒業後にご両親が一人娘の先生をよく東京まで進学を許されたことと感心しましたが、東京農工大学農学部植物防疫学科をご卒業後、東京の有名な私立大学医学部の生化学教室で研究され、米国留学もされた、栄養学・生化学の専門家でした。高齢のご両親の老後の御世話をするために、呉大学看護学部が平成11年4月に立ち上がった時に、東京のご家族と離れて広島に戻られて、看護学部で一緒にすることになりましたが、私の方は学生部長4年、学長補佐4年の後に、小児看護学の教員を増やすため非常勤講師となって3年務めて、合計11年間しか看護学教育に尽くしませんでした。先生は長年の栄養学・生化学の講義、図書館長、年2回発行の「看護学統合研究」の編集委員会などに尽力されて、広島文化学園大学名誉教授になられました。

香川治子先生、中村 哲先生や、たくさんの事務局員のご協力のもとで「農・食・医同源研究センター」を運営され、「看護学統合研究」に、その11年を振り返った歩みを記録されました。助成金獲得に尽力され、たくさんのイベントにブースをだされ、料理教室を開かれ、「シングルの会」と大活躍されました。

連絡先：岡田 浩佑

〒731-0235 広島市安佐北区可部町勝木1248-66

E-mail: kosokada@gmail.com

特に、先生の2反の畑を中村勝三郎さんの長年の果樹園に活用されて、中村様の立派な記録の書物の出版を支援されました。先生の幅広い人脈のおかげで、たくさんの方々を紹介していただき、また、たびたび皆様にお話しできる機会を与えていただいたことに感謝しています。

先生が病気のご主人様を広島に呼び寄せられたことほか、携帯電話でずいぶん長話もしましたが、昨年11月29日に広島的生活を振り払って、東京の娘様のマンションに合流することで、息子様の柏市の山下理宇先生とも近くなり、良かったと思います。

今年3月1日に逝去された世界的美術家の篠田桃紅さんが107歳で書き遺された講談社の本「これでおしまい」の中に、先生が「シングルの会」で言われていた言葉が載っていました。「ヒトは最初からおしまいで孤独ですよ。一人で生まれ、一人で生き、一人で死ぬんです。誰も一緒にはやってくれません」でした。たくさん本を読み、たくさんの人と出会って来ましたが、先生は私の忘れ難き先生です。

4年前に大腸癌のため開腹手術を受けられ、すでに余命が僅かしかないと覚悟を決めて、周囲の方々に知られないように心を配り、最期まで命の火を燃やし続けようと元気に活動され、ようやく安らかな眠りにつかれました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(2022. 4. 25)